

中高生との対話で出された主な意見

①から⑧は、高校生の意見、⑨から⑪は、中学生の意見

	意見の概要 【 】これからの社会を生きていく上で必要だと思う力	県の考え方等
①	【対応力】 世の中にたくさんの情報がある中で、将来の予測が困難になっていきます。将来、グローバル化が進むことが予測されているので、現在よりも海外の方々が訪れる可能性が大きくなります。その中で、対応力を身につけると、自分の良さや可能性を確認できるとともに、社会によりよく適応できると思います。	生産年齢人口の減少に伴う外国人労働者数及び海外旅客数の増加が予想され、30年後（2050年）の鹿児島県の社会に対応し、多様な人々と共生できるグローバル人材の育成が求められています。 県教育委員会では、授業等を通して、多くの児童生徒が継続的に国際交流を体験できるよう、県内の中学・高校と海外校（台湾、ベトナム、オーストラリア）との間でオンライン交流プログラムを実施するとともに、代表生徒1人を交流先へ派遣する「教室から世界へ！かごしまグローバルクラスルーム事業」を実施しています。 今後もグローバル人材の育成に努めてまいりたいと考えています。
②	【コミュニケーション力】 コミュニケーション力は、これからの社会を生きていく上で、仕事や仕事以外の人間関係をつくるのに必要だと思います。コミュニケーション力があることで先輩や後輩、同僚、友人と話すことによって自分にはなかった新しい発見や新しい考え方を見つけられる可能性が大きくなると思います。	
③	【発言力、共感する力】 これからの社会を生き抜くためには、自分の意見を主張し、伝える力を身につけることが必要だと思います。 現在の社会は、自分の意見や考えを発言できる人が減ってきていると感じています。せっかく良い意見をもっているのに、主張できないためにその意見を言わずに押し殺してしまう。そうならないためには、まず1人ひとりが発言しやすい環境を作ることが大切だと思います。そして、自分自身も意見を発信するよう変わっていくことが大切だと思います。	県教育委員会では、学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、「未来を切り拓く！新時代に対応した資質・能力育成推進事業」を実施しています。 その中で、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実を図ることで育成する研究を行っており、その成果を県下に広げることで、各高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、コミュニケーション能力や自分の意見を主張し伝える力や他者の考えを受けとめる力を含む、新しい時代に求められる資質・能力の育成に努めてまいりたいと考えています。
④	【英語力】 これからの社会、職種を問わずに身につけるべき力は英語力（語学力）だと思います。 世界のグローバル化により、モノ（資本）だけでなくヒト（労働力）の国境を越えた移動が活発化しており、これからもその動きがより拡大すると考えられます。そうなれば、生まれた国が違う方々と働き、その方々とコミュニケーションをとる必要があると思います。職種によっては、共に生活していくことも考えられることから、世界の共通言語である英語を活用する力が必要であると思います。	県教育委員会では、生徒の英語コミュニケーション能力を高め、グローバル社会で活躍できる鹿児島の若者の育成を目的として、以下の①から③の事業を行っています。 ①実践的な英語コミュニケーション能力を育成する「かごしま高校生イングリッシュキャンプ」 ②国際教育に造詣の深い専門家の講演や留学に関する情報の提供を通して、中・高校生の国際社会への興味・関心を高める「世界とつながれ！かごしまグローバル人材育成講演会（留学フェア）」 ③高校生がALTとの身近な話題に関する英会話を通して、国際社会への興味関心を高めるとともに、実生活に必要な英語表現等を習得し、英語による自己発信力の強化を目指す「English Café in Kagoshima」。 このような取組を通じて、今後もグローバル人材の育成に努めてまいりたいと考えています。

	意見の概要 【 】これからの社会を生きていく上で必要だと思う力	県の考え方等
⑤	【判断力】 現在の社会では、一つの行動をとるのに対しても、周りの意見を聞いたり、周りの人たちと同じ行動を行う人が増えていると思います。それによっていざという時に、1人で行動ができないという場面が多くあります。将来、AIなどが現在よりも発達して、内容が決まっている仕事などはすべてAIが行うかもしれません。そんなとき、周りの環境に合わせて、自分で状況を判断し、行動することができたらとても役立つと思います。そのため、判断能力がある人材が必要になると思います。	
⑥	【適応力】 これからの社会を生きていく上で、適応力が必要になると思います。適応力が身につくことで、新しい仕事や環境に慣れ、円滑に事を進めることができます。また、仕事だけではなく、災害時の生活など、その状況でうまくやっていくためには、適応していくことが大切だと思います。 時代も社会も変わっていく中で、生活していかなければなりません。自分で考えて行動し周りと協力できる環境をつくる必要だと思う。	県教育委員会では、学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、「未来を切り拓く！新時代に対応した資質・能力育成推進事業」を実施しています。 その中で、「主体的に社会の形成に参画し、持続的な社会の発展に寄与する」人材の育成を目指し、探究活動の進め方についてのセミナーや、高校生探究コンテストを実施しています。 こうした「主体的・対話的で深い学び」の核となる探究活動の充実を通して、判断力や適応力、変化する世の中に柔軟に対応する力を含む、新しい時代に求められる資質・能力の育成に努めてまいりたいと考えています。
⑦	【変化に対応する力】 近年、多様性という言葉がよく使われるようになり、自分では思いもつかないような考えや理解できないような考え方が多くなってきている。それにともなって、自分が予測できないようなことが毎日起り続けている。またコロナウイルスのような感染症が流行し、当たり前であったことが制限される生活が、いつまた起こることになるか予測することはできない。そのため、私はそれらの変化する世の中に柔軟に対応する力が必要であると思う。	
⑧	【AIにできない仕事をできるようにする力】 将来AIが発達すると、これまで人間が行ってきた仕事は、AIに取って代わられてしまうとされています。 そこで人間は、AIには難しいと考えられる仕事をできるようにする力が必要だと思います。例えば、小説を書くといった、感情を表現する仕事が考えられると思います。 人間とAIが、お互いのできないところを補い合うことでよりよい社会になると思います。	現在、学校でも一般向けの汎用的な生成AIサービスが利活用可能な状況であり、1人1台端末の学習支援ソフトウェアや普段利用する検索エンジン等にも組み込まれています。今後は、児童生徒一人一人のニーズや特性に合った学びを実現したり、質問に対する新たな視点やより深い視点からの学ぶことができたりするなど、生成AIサービスの利活用が更に進むことが予想されます。 また、現在ある仕事の中にはAIの方が早く終わらせられるものが今よりも出てくるかもしれません。そのような中でも、人間がAIを使いこなしながら生活をより良くすることを目指すことが大切だと考えられます。 県教育委員会では、生成AIの仕組みの理解や生成AIを学びや探究に生かす力等は、児童生徒が今後担っていく社会や時代においては必要不可欠なものといえ、生成AIを使いこなせるようになるためにも、情報活用能力育成の観点から、一概に使用を禁じるべきではなく、実際に触れながら理解を深め適切な活用法を学べるようにするべきと考えています。 このことを踏まえ、活用に当たっては、児童生徒の発達の段階を十分に考慮し、生成AIはあくまで人の思考や判断を補助するものであり、最終的には自分の判断や考えが重要であることを理解する必要があります。 また、不適切な使用が行われることがないよう、国のガイドラインで示された留意事項や生成AIサービスの利用規約等について、教職員に対して積極的な情報提供と研修機会の確保に努めています。

	意見の概要 【 】これからの社会を生きていく上で必要だと思う力	県の考え方等
	【対応力】 ここ数年、新型コロナウイルス、地球温暖化、南海トラフ地震の危険性、ロシア、ウクライナなどの地域間の争いなどにより、物価高など私たちの生活に様々な影響が出てきています。 このような世界の中で、これから社会がどのように変化いくのか予想がつきません。社会の変化に乗り遅れると、将来の可能性が狭まるかもしれません。 様々な情報に流されるのではなく、自分自身で行動するために、社会の変化に対応する力が必要だと思います。	将来の予測が困難な時代においては、一人一人が、将来にわたり、自分のよさや可能性を認識するとともに様々な能力を高め、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協力しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。 県教育委員会では、そのために必要な社会の変化に対応する力を含む資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するとともに、1人1台端末を活用し情報活用能力を高めながら「確かな学力」の育成を図ることとしています。併せて、「『学習者主体の授業』への改善推進事業(各地区での児童生徒の実態を中心に授業研究)」や「新時代の『確かな学力』育成推進事業(鹿児島学力・学習状況調査の1人1台端末を活用した実施)」に取り組み、その成果を県下に波及させていきます。
⑩	【情報リテラシー】 これからの社会は、SNS、AIが主流となる時代になると思います。これまで以上に、たくさんの情報が自分たちのもとに流れ込んでくることが考えられます。そこで、どの情報が正しくて、どの情報が誤っているのか自分で判断する力を身に付ける必要があると思います。	
⑪	【正しい情報を見極める力】 最近、身の回りにたくさんのメディアがあり、それらからたくさんの情報を受け取ることができます。中には、フェイクニュースなどの間違った情報も多くあります。 そこで、正しい情報はどれなのか、情報同士を比較して自分で見極める力が必要になってくると考えています。 また、情報を受け取る時だけでなく、自分が発信する時も、内容は本当に正しいものなのかをよく考えることが大切だと思います。	様々な質の情報が大量に溢れ、将来の予測が困難な社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見出した情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくために、情報活用能力の育成が重要であるとされています。 県教育委員会では、各学校において日常的に情報技術を活用できる環境を整え、全ての教科等で1人1台端末を適切に活用した学習活動の充実を図っています。また、児童生徒の情報活用能力を育成するため、教職員向けに研修会等を行っているところです。今後とも情報モラルの向上を含め、情報を正しく活用できる人材を育成できるよう努めます。